

モニタリング結果報告書 (令和3年度)

資料 1 - 2 ①

1. 施設概要

施設名	神奈川近代文学館		
所在地	横浜市中区山手町110		
サイトURL	https://www.kanabun.or.jp/		
根拠条例	神奈川県立神奈川近代文学館条例		
設置目的(設置時期)	近代文学に係る図書及びその著者の遺品等を収集し、整理保存し、及び展示し、並びに近代文学に係る図書を閲覧に供するとともに、併せて県民に文化活動の場を提供するため。 (昭和59年4月)		
指定管理者名	公益財団法人神奈川文学振興会		
指定期間	R3.4.1 ~ R8.3.31 (2021年) (2026年)	施設所管課 (事務所)	文化課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
<p>※新型コロナウイルス感染症が3項目評価(利用状況、利用者満足度、収支状況)に与えた影響及び対応状況も含めて「総合的な評価の理由と今後の対応」を記載。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため10月24日(日)まで予約者のみの展示観覧、閲覧室利用とし、会議室は10月25日(月)まで断続的に直近の会議室新規予約受付を停止し利用制限を行った。また、乗用エレベータ2機の更新工事のため、令和3年12月1日から令和4年3月31日まで全館休館とした。</p> <p>年間展示入館者数は21,200人となり、前年度8,902人から回復した。収入は予算額に達しなかったが、支出について減額補正により執行額を抑制し、収支の均衡を図ったことで収支比率100%となった。利用者数は減少したものの利用者満足度は高く、3項目評価はB評価となった。</p> <p>今後も多様な分野の展示や集客力のあるイベントを実施し、近代文学及び近代文学館への興味を喚起できる取組の充実を期待する。また、Webコンテンツの拡充等、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した取組の推進に期待する。</p>
<p><各項目の詳細説明></p> <p>◆管理運営等の状況 年間の展示室入館者数は令和元年度まで6年連続で4万人台を記録し好調を維持していたが、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響で8,902人となった。令和3年度には21,200人に回復したものの、依然として厳しい状況が続いている。</p> <p>◆利用状況 展示室・閲覧室・会議室の利用者数は29,787人となり前年度比211.8%であったが、目標の48,300人には達せず、目標達成率は61.7%でC評価となった</p> <p>◆利用者の満足度 10月~11月の特別展「樋口一葉展」(入場者数6,647人)の実施時期に来館者とホームページ閲覧者を対象に満足度調査を行い、上位2段階の回答割合が98.8%となったため、S評価となった。</p> <p>◆収支状況 前年度と比較するとやや回復したが、観覧予約制や会議室利用制限の影響で減収した。支出について減額補正により執行額を抑制し、収支の均衡を図ったことで収支比率は100%となり、A評価となった。</p> <p>◆苦情・要望等 来館者から寄せられた要望等については、近代文学館で適切に対応した。</p> <p>◆事故・不祥事等 令和3年10月23日(土)に受電用幹線電源ケーブルの不良により全館停電(非常用発電機稼働)となり、同日午後と翌日が臨時休館となった。10月25日(月)に破損ケーブルを取り替え、復旧した。その他、経年劣化による設備の不具合が各所で続いている旨、近代文学館から報告を受けている。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。</p> <p>◆その他 令和3年度の3項目評価についてはB評価とした。</p>

3. 3項目評価の結果

3項目評価	利用状況 (項目6参照)	利用者の満足度 (項目7参照)	収支状況 (項目8参照)	3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう。
B	C	S	A	S: 極めて良好 A: 良好 B: 一部改善が必要 C: 抜本的な改善が必要

4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	令和3年10月	受電用幹線電源ケーブルの不良による全館停電が発生した。
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	随時 (月1～2回程度)	工事予定箇所及び工事実施状況の確認等を行った。
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	月1回程度	施設の利用状況や懸案事項等について協議した。
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有・ 無	指導・改善勧告等の内容

5. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>・より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。(集客を目指す展示、独創性のある展示、他機関との連携など、事業の広がり意識した展示など)</p>	<p>4～5月 特別展「創刊101年記念展 永遠に『新青年』なるもの」 入場者数4,434人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約者のみの観覧</p> <p>5～7月 企画展・収蔵コレクション展20「生誕90年 三浦哲郎展一星をかたりて、たれをもうらまずー」(同時開催：スポット展示・収蔵コレクション展19「生誕100年 金達寿展」(再開催)) 入場者数2,219人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約者のみの観覧</p> <p>7～9月 企画展「佐藤さとる展—『ロボックル物語』とともに—」 入場者数7,900人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約者のみの観覧</p> <p>10～11月 特別展「樋口一葉展 —わが詩は人のいのちとなりぬべき」 入場者数6,647人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため10月24日(日)までは事前予約者のみの観覧</p> <p>※令和3年12月1日(水)～令和4年3月31日(木)は本館・展示館のエレベータ更新工事のため展示室休室</p>	<p>・春の特別展「創刊101年記念展 永遠に『新青年』なるもの」ではコミックスとコラボレーションを実施。参加者の興味に沿ったワークシートを実施し展示に興味を持っていただけた。</p> <p>・当年度開催の展覧会は全て、前年度の休館要請により延期を余儀なくされたものであり、中止の恐れもあったが、資料借用先など関係者に交渉して開催することができた。</p>
<p>・館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会を積極的に開催する。</p>	<p>特別展「創刊101年記念展 永遠に『新青年』なるもの」では、一時代を画した雑誌「新青年」(全巻揃い)について、資料収集の成果を生かした展示ができた。企画展・収蔵コレクション展20「生誕90年 三浦哲郎展一星をかたりて、たれをもうらまずー」、企画展「佐藤さとる展—『ロボックル物語』とともに—」では館蔵資料を活用し、作家の生涯と作品を顕彰し、好評を得ることができた。</p>	<p>・展覧会についての報道を通じて近代文学館の資料収集成果をPRすることができた。</p>

<p>・特別展や企画展と連携した講演会、朗読会、講座、映画会など開催し、利用者のニーズに応える。</p>	<p>4～5月 ※〈 〉内に定員を減らして実施 新青年展記念講演会 2回<50%> 同展朗読会 1回<50%> 同展ギャラリートーク 7回<50%> (会期内8回) (「新青年展」記念上映会 2回<50%>) (高校生向け事業 <中止>)</p> <p>5～7月 三浦哲郎展記念講演会 1回<50%> 同展朗読会 1回<50%> 同展ギャラリートーク 5回<50%> (高校生向け事業 オンライン開催1回) 「デジタル文学館」への追加 黒川創講演「いま、新しく読む金達寿」 (ゲスト)</p> <p>7～9月 佐藤さとる展記念講演会 1回<50%> 同展朗読会 1回<50%> 講演会記録音声を聴く会 2回<50%> 同展ギャラリートーク 3回<50%> (かなぶんキッズクラブ <映画会、紙芝居、絵本の 読み聞かせほか> 5回<50%>) (DVD上映会 1回<50%>) (朗読コンサート 1回<50%>) (ベートーヴェン生誕250年記念講演会 1回<50%>) (高校生向け事業 <中止>) 「デジタル文学館」への追加 勝又浩講演「三浦哲郎一家霊を負った人」 (ゲスト) 「佐藤さとる展一『コロボックル物語』とともに」 展覧会ダイジェスト 柏葉幸子、野上暁、金沢千秋トーク 「佐藤さとる先生の思い出」 (ゲスト)</p> <p>10～11月 樋口一葉展記念講演会 2回<70%> 同展朗読会 1回<70%> 同展ギャラリートーク 8回<70%> (「樋口一葉展」記念上映会2回<70%>) (「文字・活字文化の日」記念行事 <ギャラリートーク> 1回<70%>) (韓日文化交流会 2回<70%>) (高校生向け事業 オンライン開催1回) (かなぶん連句会 1回) 「デジタル文学館」への追加 夏目房之介講演「孫からみた漱石の書画」 (ゲスト) 廣瀬陽一講演「戦後日本を切り拓いた金達寿—その軌跡」 吳文字講演「季刊『三千里』創刊前後の金達寿先生—思いだすままに」</p> <p>*前年までに公開したコンテンツを含めた令和2年度からの累計視聴数はのべ11,400件</p>	<p>・展覧会に連携した講演会、文字活字文化振興を目的とした講演会等の各種イベントを実施した。 ・開催時の感染対策として、〈 〉内の割合に定員を絞って実施した。 ・前年度の休館期間から開始したオンライン事業では、動画視聴数を伸ばすことができた。</p>
<p>・専門館として文学のレファレンスにきめ細かく対応する。</p> <p>[参考] レファレンス：文学に関する情報や資料の各種問合せに対し、情報提供、調査のレポートを行うサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も多く、公共図書館等他施設からの照会もある。</p>	<p>レファレンス件数 185件</p>	<p>・利用者からの様々な問合せに対応し、専門的施設としての役割を果たした。 ・令和3年4月1日(木)～10月25日(月)は事前予約者の閲覧を受け入れた。 ・令和3年12月1日(水)～令和4年3月31日(木)はエレベーター工事のため休室したが、電話や電子メール等によるレファレンス、郵送複写の問合せにはきめ細かく対応した。</p>

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
<p>開催中の文学展と連携した読書コーナーを閲覧室内に設け、来館者の展示観覧後の読書意欲を満たす環境を提供することで収蔵資料の利用を促進する。</p>	<p>4～5月 特集・雑誌「新青年」 利用者数994人 ※新型コロナウイルス感染症防止のため事前予約者のみの利用</p> <p>5～7月 特集・三浦哲郎 利用者数595人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約者のみの利用</p> <p>7～9月 特集・佐藤さとる 利用者数1,047人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約者のみの利用</p> <p>10～11月 特集・樋口一葉 利用者数846人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため10月24日(日)までは事前予約者のみの利用</p> <p>※令和3年12月1日(水)～令和4年3月31日(木)は本館・展示館のエレベータ更新工事のため閲覧室休室</p>
<p>「神奈川近代文学館友の会」を募り、文学館事業への参加を促す。</p>	<p>会員数848名 友の会会員の集い 1回 友の会講座(会員以外も参加可) 1回 文学散歩 1回 ※新型コロナウイルス感染症拡大により散歩1回を延期</p>
<p>文学振興に理解ある会社経営者や個人により、資金面で財団事業を支援していただくため「神奈川近代文学館を支援(サポート)する会」会員を募り、広報宣伝活動にも協力いただく。</p>	<p>会員数105名(127口) 機関紙「神奈川近代文学館」の配布、展覧会への招待を行い、「支援する会」会員の企業及び団体からはポスターの掲出、チラシの配布、学校動員など各展覧会について広報宣伝活動の支援を受けた。</p>
<p>研究者や専門家の立場から学術面で協力を得るための支援組織「神奈川近代文学館懇話会」により人的ネットワークによる事業支援をいただく。</p>	<p>会員数76名 機関紙「神奈川近代文学館」等の配布を通じて最新の事業内容を報告、会員からは総会の場で事業運営等について意見や提言をいただいた。 12月に第12回総会を開催 参加人数5人</p>

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

6. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性保護施設と県営住宅等が該当）。
C	

	前々年度	前年度	令和3年度
利用者数※	73,007	14,066	29,787
対前年度比		19.3%	211.8%
目標値	66,500	67,000	48,300
目標達成率	109.8%	21.0%	61.7%

目標値の設定根拠：

経営改善目標

利用者数の算出方法（対象）： 観覧券の枚数、受付係員がカウント（展示観覧者数）+ 閲覧カウンター職員がカウント（閲覧室利用者数）+ 利用申請者が予約システムに入力した人数（会議室利用者数）

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<備考>

令和2年度第3回第三セクター等改革推進部会（令和3年3月29日開催）における経営改善目標の策定の中で、提案時の目標値を一部変更し、今後5年間（令和3年度～令和7年度）の目標値を設定した。

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】

（※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載）

①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響

4月1日（木）から10月24日（日）まで、予約者のみの展示観覧、閲覧室利用とし、会議室は10月25日（月）まで断続的に直近の新規予約受付を停止し利用制限を行った。展示室・閲覧室・会議室の利用者数は29,787人となり前年度比211.8%であったが、目標の48,300人には達しなかった。

②令和3年度の対応状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月1日（木）から10月24日（日）まで展示観覧、閲覧ともに予約制となったが、WEBでの予約に加え、電話等での予約受付も行い、高齢者にも配慮した。また、入口に消毒液、サーモグラフィーを設置、受付等にアクリルパーティションを設置し、物品の消毒、換気等、ガイドラインに沿った感染対策を行った。「三浦哲郎展」（第2展示室）の会期中には、第3波の影響で前年度の令和3年1月11日（月）で中断した「生誕100年金達寿展」を第3展示室で再開催した。貸し会議室についても使用後の消毒、換気等感染対策を徹底するとともに、利用者にも時期に応じた定員設定や感染対策を呼びかけた。講演会等イベントは定員を50%もしくは70%に設定した。満席で参加できなかった方や来館を控えた方のために、DVDを作成し頒布した他、有料配信も行った。

7. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
満足度調査の実施内容	<p>(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口で常時用紙を備え、利用者に記入していただくなど、簡便な方法で随時実施するアンケート</p> <p>(2) 詳細アンケート アンケート用紙を利用者に一斉に送付し、回収・分析するなど、詳細な内容で定期的実施するアンケート</p>	<p>・「樋口一葉展」開催期間の10月2日（土）～24日（日）、新型コロナウイルス感染症対策として展示観覧と閲覧室利用は事前予約制をとり、会議室は夜間利用の自粛を要請し、新規予約の受付を停止した。会期中のイベントも通常定員を70%にしほり開催した。</p> <p>・このような制約は利用者にとって不便なものであり、コロナの状況と併せて、来館を控える要因の1つとなったといえる。</p> <p>・県内及び都内からの来館者が全体の92.8%を占め、昨年以上に、県外からの来館者が減った。入場者のうち65歳以下は約33%、65歳以上は約32%。会期中の学校団体観覧はコロナの影響でわずか4件にとどまり、近代文学史上屈指の著名作家の展示観覧に多くの学校の来場を見込めるところ、残念な結果となった。</p> <p>・展示について、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせ92.2%の高い評価を得た。展示をきっかけに一葉を知ることができたこと、展示の構成や作品に登場する建物のミニチュアの展示など、作品世界や時代背景を知るための工夫があったことについて「一葉に詳しくなかったが、文壇だけでなく当時の東京の様子や風俗も学べて非常に興味深かった」などの声が寄せられた。</p> <p>・また、資料の内容を深く掘り下げた展示について、「充実した内容で見応え十分だった。特に「日記」コーナーで、「社会自然人生貧困恋…」等の切り口で、日記の抜粋を示し、また「日記一覧」を3期に分けて、各期の日記の特徴を示した展示はとても印象深かった」など高く評価された。</p>

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 来館者：11. 以下の項目について、どのようにお感じになりましたか。>④全体評価
Web：8. 利用なさっての全体評価をお願いします。

実施した調査の配布方法 受付等に配架、HP 回収数/配布数 240 / =
掲載

配布(サンプル)対象 来館者、HP利用者 ※項目未回答者あり

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	104	55	2	0	161	・横浜市内にこのような文学に関する施設が存在しているのは、文学好きにとっては大変嬉しい。 ・受付の方が丁寧で好感が持てた。
回答率	64.6%	34.2%	1.2%	0.0%		
前年度の回答数	58	30	1	0	89	
前年度回答率	65.2%	33.7%	1.1%			
回答率の対前年度比	99.1%	101.3%	110.6%			

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

<備考>

【新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響と対応状況】
(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響
新型コロナウイルス感染症の影響等に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

②令和3年度の対応状況
新型コロナウイルス感染症の影響等に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

8. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況				収入合計	支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳			収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	407,222	9,209	48,044	受取利息収入 16 事業収入 6,729 立替金収入 157 雑収入 538 退職給付引当預金 取崩収入 40,604	464,475	464,475	0	
	決算	407,222	15,037	47,066	受取利息収入 15 事業収入 6,050 立替金収入 146 雑収入 251 退職給付引当預金 取崩収入 40,604	469,325	469,324	1	100.00%
前年度	当初予算	407,171	9,259	49,433	受取利息収入 15 事業収入 6,729 立替金収入 157 雑収入 538 退職給付引当預金 取崩収入 41,994	465,863	465,863	0	
	決算	412,860	2,919	2,017	受取利息収入 10 事業収入 1,598 立替金収入 72 雑収入 317 寄付金収入 20	417,796	417,794	2	100.00%
令和3年度	当初予算	410,043	8,059	45,428	受取利息収入 15 事業収入 5,530 立替金収入 157 雑収入 252 退職給付引当預金 取崩収入 39,474	463,530	463,530	0	
	決算	410,043	7,654	44,300	受取利息収入 2 事業収入 4,327 立替金収入 116 雑収入 168 寄附金収入 5 補助金収入 208 退職給付引当預金 取崩収入 39,474	461,997	461,992	5	100.00%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数 (単位:千円)

令和3年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響と対応状況】
(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響
会議室使用料について、県の要請に従い夜間利用を制限し、10月25日(月)までの期間は断続的に直近の予約を制限したため、予算額2,014千円に対し実績額806千円と予算額の40.0%となった。講演会収入は感染症対策のため、まん延防止期間中は定員を50%に、その後の期間は70%にしたため、予算額の42.3%となった。

②令和3年度の対応状況
収支状況の改善に向けて、経費節減に努めたほか、文化庁の博物館向け補助金「文化施設の感染症防止対策事業」に申請し補助金支給を受けた。

9. 苦情・要望等 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	アンケート	1 件	トイレが展示室（有料スペース）の中にし かないと分からず、観覧後に入る事が出来 なかった。分かりやすく掲示して欲しい。	案内掲示を変更し接客など を工夫して利便性の向上を 図った。
	アンケート	2 件	途中で少し休む所があると有り難い。休憩 スペースが欲しい。	休憩用の椅子を置けるよう 展示ケースレイアウトを調 整している。
職員対応	アンケート	1 件	展示室出口に近いエリアで、職員 2 人の喋 る声が響いていた。	受付スタッフに苦情の内容 を周知した。
事業内容	アンケート	1 件	照明が暗く資料をよく見ることができな かった。	資料保存のために照度を落 としていた旨掲示し、理解 していただけようにし た。
	アンケート	1 件	展示観覧予約の時間が30分刻みだったため 館内の滞在時間がその時間内なのだった。	HPの予約ページの案内に 説明を追加した。
その他	口頭	1 件	トイレ内にある「おむつはビニール袋に入れ 」という掲示は誤りなので「ポリ袋に入れ 」とすべき。	掲示を修正した。

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
10月23日	①10月23日（土）正午頃、受電用幹線電源ケーブルの不良により全館停電（非常用発電機稼働）。 ②10月23日（土）、24日（日）、25日（月）にメール及び電話で確認。 ③緊急設備点検の必要が生じたため、23日（土）午後と24日（日）を臨時休館し、来館予定者への連絡を行った。10月25日（月）に破損ケーブルを取り替え、復旧。再発防止のためには別仕様のケーブルに更新をすることが必要であるが、入手困難のため、従来仕様のケーブルに更新した。5年後程度を目途に、ケーブルの更新が必要。 ④無 ⑤原因：交換推奨年より早い劣化 費用負担：有（指定管理者 計1,308千円） ⑥無

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。